

「ヘリコバクター・ピロリ除菌治療 Q&A」

榑 信廣 著

自治医科大学教授・消化器内科

菅 野 健太郎

ヘリコバクター・ピロリの除菌治療が、わが国でもようやく保険診療として認められ、わが国の消化性潰瘍治療体系が欧米諸国に近づいてきたことは喜ばしいことである。しかし、これまで除菌治療に造詣の深い専門家の手によって行われてきた除菌治療が、だれでも可能となったことに伴い、全国各地でヘリコバクター・ピロリ感染の診断、適応症、治療法、その後の経過観察の方法、ならびに除菌判定法など、除菌治療における様々なポイントで、保険診療上の混乱が起きていることが明らかになっている。除菌治療が認可になり、製薬メーカーも各地で精力的に講演会を開催して、除菌治療についての啓蒙活動を行い、また各地の医師会も、現場の混乱に対応するために注意を呼びかけているが、いましばらくはまだまだ様々な問題や疑問が生じてくることが予想される。

榑博士は内視鏡診断や除菌治療に

関するわが国でも有数の臨床研究者であり、既に多数の著書を発表され、全国各地で講演を行っておられるが、その経験に基づいて、現場臨床医の除菌治療をめぐる様々な疑問に答える本書を著されたのは、まさに時宜を得たものであると言えよう。本書の特筆すべき点は、その内容が「質問と解答(Q&A)」形式となっていて、現場の医師の疑問や患者さんへの説明にすぐ役立ち、しかも気軽に読みやすく配慮されていて感心させられた。質問に対する答えも、忙しい臨床家のために、そのものズバリの短い解答とともに、その根拠となるより詳細な解説の2段階になっているので、時間に合わせて読むのに都合がよい。そのうえ向学心の強い医師向けには、解説の中に原著の参考文献まで付せられているので、これらを併せて読むことによって、これまで全く除菌治療を行った経験のない医師でも除菌治療の実際が明

快かつ詳細に理解できると思われる。このような本の体裁の工夫には、医学書院の編集者の努力も大きかったのかもしれない。もちろん専門家からみても、榑博士の解説には傾聴させられる点が多く、興味をもって一気に読み進められる。

現在保険認可となっている除菌治療は、これまで長い試行錯誤に基づいてようやく確立されたものであるが、その過程で様々な問題点も有していることが明らかにされている。本書は医師が除菌治療を適正に行うために、大いに役立つばかりでなく、除菌治療を受ける患者さんにもぜひ一読をお勧めしたいと思う。

● A 5 頁 160 図 17 写真 12
カラー写真 48 色図 2 表 36
2001 定価(本体 3,000 円+税) 送料実費

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)